

海を味わうでいい海鮮まつり



7月8日、『てつくり海鮮まつり』が汐吹漁港において開催されました。てつくり海鮮まつりは漁業者主催のイベントということもあり、普段の仕事場である『漁港』を会場に行われ、漁船の乗船体験やイカ釣り体験、特大サイズのてつくり(ヒラメ)を地元の漁業者が捌く解体ショーなど、「浜」ならではの見どころが満載でした。さらに販売コーナーでは、新鮮なてつくりを使用したフライや、鬼エビの味噌汁、すり身汁など浜のお母さんの手作り料理、そして獲れたての魚介類がステパーなどよりも安い浜値で売られ、それらを買い求める方々が列をなす盛況ぶりでした。今年で3年目となるヒラメを主としたてつくり海鮮まつりですが、知名度の上昇とともに来場者が増え続けており、来年も更なる増加が期待されます。



7月1日から2日にかけて、札幌市にあるサッポロビール園においてイベント『道産子感謝Day』が開催され、本町からは道の駅もんじゅを運営している㈱上ノ国町観光振興公社が出店しました。会場がビール園ということもあり、全道からお酒に合う様々な料理が出展されたなか、上ノ国ブースでは、まちの名物『てつくり(ヒラメ)』を気軽に食べられるように考案された『てつくりクリーミーフライ』のほか、フルーツポークを使用した「ハンバーグ春巻き」の2種類が販売されました。



特に、他の店舗では焼き鳥などのツマミ的なメニューが中心だったことから、本町の一工夫した料理が来場者には新鮮に映った様子で、盛況のイベントの中で上ノ国町の特産品がひとくわ好評を博しました。

サッポロビール園で上ノ国の美味を売る

真夏の湯ノ岱を老若男女が走る



6月25日、檜山管内でそれぞれ活動する女性団体連絡協議会主催の檜山大会が本町で開催され、『品田俊子会長』は開催町として大会運営を主導しました。同団体は、女性の視点から『豊かな地域づくり』の実現を目的とし、おり、現在、宮越、桂岡、中須田、北村、上ノ国、扇石、汐吹、石崎の8地区で115名の会員が活動しています。この檜山大会において、開催町代表として挨拶と決議を行つた品田会長は、豊かな地域というテーマに対しても、女性の力を活かし実際に向けて頑張りたいと話し、各町の団体が協力し、今後も地域の活性化に向けた活動していくことが誓い合われました。午後からは東北を中心とした講演会も好評を博しました。

女性の視点から考える暮らしがやすいまちづくり